

# 令和7年度第1回 名張市上下水道事業運営審議会

## 会議録【概要】

日時：令和7年7月17日（木）午後2時～午後4時

場所：名張市上下水道部庁舎 3階大会議室

委員出席者：中山会長、田畑副会長、松元委員、古谷委員、福田委員、大黒委員、我山委員（会長、副会長を除き、名張市上下水道事業運営審議会条例第3条2項に示す第1号委員から第4号委員の順、各号内で順不同）

出席者：北川市長

事務局出席者：栗原上下水道部長、寺島経営総務室長、茶谷経営総務室水道担当室長、奥家浄水室長、岩本水道工務室長、（経営総務室）山森主幹、山嵯係長、小藤主査、大塚主任、西岡室員

事務局補佐：株式会社日水コン 3名

傍聴人：1名

（議事要旨）

【諮問】市長が「名張市水道事業の持続可能な経営のあり方」について審議会へ諮問

【会議】

### 1. 名張市上下水道事業運営審議会運営規程 及び 傍聴要領について

事務局から以下の資料内容を説明

- ・名張市上下水道事業運営審議会条例
- ・名張市上下水道事業運営審議会運営規程
- ・名張市上下水道事業運営審議会傍聴要領

### 2. 審議事項

○水道事業の持続可能な経営のあり方について

事務局から以下の内容を説明

- ・名張市水道事業経営戦略の中間見直し

- ・水需要予測
- ・財政シミュレーション

【質疑応答】

- ・水道事業経営戦略の中間見直し

(委員) 良好と評価された取組が多いが、数値目標については未達成のものも多い。これらの整合性や関係は、どう理解すればよいか。

(事務局) 目標を達成するために実施する項目として、これらの取組を挙げている。取組としては良好であっても、目標を達成できていないため、引き続き取り組んでいく必要がある。

(委員) スマートメーターは、電気料金のメーターの様なものか。電源や設置工事は必要なのか。

(事務局) 仕組みは同じである。電源や設置工事の必要性は、機種によると思われる。

(委員) 情報の取組は問題なしと評価しているが、ホームページにアクセスしなければ、情報が得られない。さらに積極的に発信・PRしていくべきではないか。

(事務局) 広報誌等も活用しながら、積極的にPRできるように検討していく。

(委員) 料金改定に関しては、住民に対してだけでなく、議会や議員に対しても積極的に説明をしていくべきではないか。

(事務局) 様々な機会や方法で説明できるように検討していきたい。

(委員) 公民連携の検討については、管路DBの検討を行い、要検討という評価であるが、今後の見込みはあるのか。

(事務局) ダクタイル鋳鉄管については、比較的DBが進んでおり、ダクタイル鋳鉄管の組合から話を聞かせてもらっている。一方、名張市の主な更新材料であるポリエチレン管については、事例は少ないようである。事例があれば紹介してもらえるようにポリエチレン管の組合に依頼をしている。

(委員) 管路の設計業務は、行政の方でやっているのか。

(事務局) 3年前までは直営で設計していたが、更新延長を増やす必要があることと、職員数の問題から、近年では民間に委託している。

(委員) 投資目標の、「法定耐用年数超過設備率54%以下」と「管路更新率1%」は未達とあるが、この数値は計算して設定されたものか。

(事務局) 法定耐用年数超過設備率については、当時の計画に基づいて順調に更新すれば54%になるという試算であった。管路更新率については、年1%のペースで全管路の更新に100年かかることとなり、それを上回っていくということで1%としている。

(委員) 今回の中間見直しは、最終的には名張市で行う認識でよいか。  
(事務局) 見直し自体は市で行うが、審議会でご意見をいただいて、見直しに反映していきたい。  
(委員) できれば意見を言うためにも、定性的な取組については具体的に示すこと。  
(委員) 取組の中で公民連携については、委託の結果としてどのような効果が得られたのか、金額等で示せないか。実施したことを評価するよりは、実施した結果どれだけの効果が得られたのかということの評価するべきではないか。  
(事務局) 浄水場の包括委託について、現段階では、民間委託の方が人件費は安くなる。今後は民間も人手不足であり、見極めていく必要がある。なお、浄水場の自動運転によって、人件費を 1.5 人削減している。民間委託から直営に戻すことは難しく、検証が必要だと考えている。

#### ・水需要予測

(委員) 社人研の推計人口は、中位推計か。  
(事務局) 出生中位・死亡中位推計である。  
(委員) 給水人口の減少率よりも有収水量の減少率の方が、大きくなるのか。  
(事務局) 人口減少に加えて、1 人あたりの使用水量も減っているためである。  
(委員) 業務営業用水やその他用水についても、減少する見通しなのか。  
(事務局) 過去の動きから減少する見通しとしている。

#### ・財政シミュレーション

(委員) 3 年といった短い間隔で実際に改定ができるのか。住民や議会の理解が得られるような現実的なシミュレーションをするべきではないか。  
(事務局) どれくらいの割合や間隔で改定していくのかを調整していく必要がある。  
(委員) 内部留保資金の目標額等の前提条件をきちんと整理する必要がある。また、最終的にどこまで改定しないと水道事業が成立しなくなるのかを示す必要がある。  
(委員) ケース 1 とケース 2 で最終的な目標値は同じに設定して、比較した方がよいのではないか。  
(事務局) 補足すると、次世代にどれだけ負担が残っているかを表すため、企業債残高を示している。  
(委員) 内部留保資金や企業債残高は、絶対評価は難しいので、三重県内の市町村等と相対比較してはどうか。  
(事務局) 将来の値はわからないが、現在の値は調べることができるので示していきたい。

(委員) 経営戦略では、令和6年度に25%の料金改定が必要とあるが、実施できていない理由は何か。また、経営戦略について議会への報告は行ったのか。

(事務局) コロナ禍と物価高騰によって、将来が見通せない状況であった。住民の負担が増える中で何とかやりくりしてきたが、動力費や物価の上昇により、今に至った。なお、経営戦略の内容については、策定時に議会へ説明を行っている。

(委員) 人口が急増したという点で、名張市の成り立ちは特異であると考え。人口推移が名張市と似ている都市をモデルにしてはどうか。

(事務局) 事例はあると思われるので、検討する。

(委員) 地形や水源の状況が近い都市と比較してはどうか。そのうえで経営環境が似たような都市を参考にしてはどうか。

(事務局) 調べることは可能と考える。現在の状況が同じというよりは、少し前に同じ状況を経験し、それをどう乗り越えたのかを検証することは、一つの手法だと考える。

(委員) 名張市が経営効率化に取り組んでいることをもっと示してはどうか。

#### 【各委員からの意見等】

- ・ 数値目標と取組の評価において、評価の整合性を取る必要がある。また、取組評価の際、定性的なものについては、その効果についても具体的に示すこと。
- ・ 名張市の水道事業の情報を発信できていない。もっとPRしていくべきである。
- ・ 内部留保資金や企業債残高の目安は、絶対評価では難しいので、三重県内の事業体と相対比較してはどうか。
- ・ 地形や水源の状況が近い都市と比較してはどうか。そのうえで、事業体の経営環境が似たような都市を参考にしてはどうか。
- ・ 次回に向けて、シミュレーションの前提条件の合理性や先行している類似事業体との比較について検討してもらいたい。
- ・ 名張市が経営効率化に取り組んでいることをもっと示してはどうか。

### 3 その他

- ・ 水道料金算定要領（令和7年2月改定 公益社団法人日本水道協会）について要領の概要や見直しポイントについて説明

以上